

MASHIKO MUSEUM OF CERAMIC ART

益子陶芸美術館

2025年度
〔企画展案内〕

回覧

■笹島喜平館

益子出身の木版画家 笹島喜平の作品を展示しています。笹島は棟方志功に師事し、やがて版画の表面に凸凹が残る“拓刷り”という技法を生み出しました。



■旧濱田庄司邸

濱田庄司が実際に住んでいた茅葺の邸宅を移築し公開しています。町文化財。
益子町茶華道協会による呈茶会 春・秋に実施



■登り窯

濱田庄司が生前に愛用していた登り窯を移築復元しました。



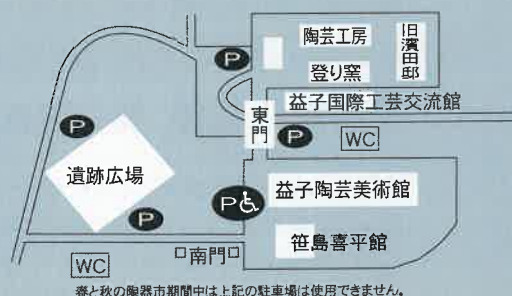
■サロン(ミュージアムショップ)

お好きな益子焼のコーヒーカップを選び、
挽きたてのコーヒーをお召し上がりください。
*入館無料



■益子国際工芸交流館

[Mashiko Arts & Crafts Residence]
世界各国の代表作家や若手作家の交流事業を開催し、作品創作や人材育成など学びと交流に繋がる施設。



春と秋の陶器市期間中は上記の駐車場は使用できません。

■開館時間

9:30~17:00 (2月から11月) ※入館は16:30まで
9:30~16:30 (12月から1月) ※入館は16:00まで

■休館日

月曜日(祝休日の場合は翌日)
但し、5月6日(火)、11月4日(火)は開館
5月7日(水)、11月5日(水)は休館
年末年始休館 12月26日(金)~2026年1月2日(金)
工事休館 1月13日(火)~3月7日(土)
*他に展示替えによる臨時休館があります

■入館料

益子陶芸美術館、笹島喜平館 共通
[一般] 600円(550円)
[小中学生] 300円(250円) ※()内は20名以上の団体料金
[65歳以上] 300円 ※個人団体共に
(受付にて年齢確認出来るものをご提示下さい)
入館無料: サロン(ミュージアムショップ)、ミニギャラリー、旧濱田庄司邸、登り窯
入館無料日: 6月15日(日) 栃木県民の日

■交通案内

【バス】東武宇都宮駅、JR宇都宮駅(西口14番バス乗り場)から関東自動車バス
益子行、または秋葉原駅より茨城交通高速バス「関東やきものライナー」
笠間・益子行、益子陶芸美術館入口下車徒歩2分
【JR】小山駅から水戸線下館駅下車、下館駅から真岡鐵道益子駅下車
徒歩25分
【自動車】常磐道友部JCT経由、北関東道桜川筑西ICから20分
東北道栃木都賀JCT経由、北関東道真岡ICから25分



益子陶芸美術館

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子3021
TEL.0285-72-7555 FAX.0285-72-7600
<http://www.mashiko-museum.jp/>

■企画展

2025

4月

展示替えのため休館 4月7日(月)～4月19日(土)

4月20日(日)～7月13日(日)

加守田章二と益子の焼締陶

Shoji KAMODA and unglazed ceramics in Mashiko

江戸時代末期に始まった益子焼は、施釉陶器の歴史が築かれてきました。加守田章二は1958年、益子の塚本製陶所の研究生となり、翌年独立します。1966年には半倒炎式角窯を築き、炆器、曲線彫文、彩陶と、土のテクスチャーを生かした新しいスタイルの作品を次々と発表していきました。こうした加守田作品に傾倒し、施釉を行わない土肌を見せる作風が益子で一世を風靡します。本展では一ジャンルとして形成された、加守田章二に連なる益子の焼締陶を紹介します。

4月20日(日)～9月21日(日)

2階展示室 スポットライト:ロンドン ヴァンガードコートの陶芸家たち

The potters in Vanguard Court, London

展示替えのため休館 7月14日(月)～7月26日(土)

7月27日(日)～9月21日(日)

硝子と陶の詩人 扇田克也・宮澤章

Glass and ceramic poets: Katsuya OHGITA & Akira MIYAZAWA

扇田克也(1957-)は石川県を拠点として「鑄玻璃」と名付けた鑄造硝子技法で制作する造形家です。家や自然の風景などの日常的な景色を象り、「内側に溜る光」を意識した、硝子という透ける素材がなし得る造形を制作しています。

宮澤章(1950-)は益子を拠点に活動する陶芸家で、塔や俑(よう)を手びねりで成形し、手の跡など制作の過程を残す「積化象嵌」と名付けた手法で、土本来が持つ柔らかな肌を追求しています。

それぞれの素材本来の魅力が引き出された、温かく詩情あふれる二人の作品をご覧ください。

展示替えのため休館 9月22日(月)～10月4日(土)

10月5日(日)～1月12日(月・祝)

松崎健 一窯艶 健の陶表現一

Ken MATSUZAKI

松崎健(1950-)は東京に生まれました。玉川大学芸術学科では陶芸を専攻し、卒業後は益子の島岡達三に師事します。1977年に益子に築窯し独立後は、それまでの作風から離れ独自の作風を求め模索し、現在まで作陶に励んでいます。織部、志埜、黄瀬戸といった茶陶を多く制作する松崎は、窯変によって作品に生まれる表情を大切にしています。薪窯やガス窯を自在に扱い、うつわを彩る窯変や薪窯だからこそ誕生する灰被、そして新たな試みとして手がけた紫志野といった作品を紹介します。

10月28日(火)～1月12日(月・祝)

2階展示室 スポットライト:宇佐美朱理 記憶された想い

Shuri USAMI

色彩と形が生み出す感覚的な陶芸を紹介いたします。

10月26日(日)～11月24日(月・祝)

<笹島喜平館>日本拓版画会 展2025

Japan Takuhanga Print Society Exhibition 2025

日本拓版画会のメンバーによる拓刷木版画の世界を紹介します。

空調工事のため休館 1月13日(火)～3月7日(土)

3月8日(日)～5月17日(日)

金重有邦 土のコトダマ

Yuho KANESHIGE

金重有邦(1950-)は備前を拠点に作陶する陶芸家です。武蔵野美術大学彫刻科で学んだ後、父・素山のもとで本格的に陶芸を始めました。これまでジャンルを超えて様々な陶芸作品を制作してきましたが、現在は「田土」と呼ばれるきめ細やかな備前土を用いた制作に集中しています。

備前の風土と対話することで生み出された作品の数々をご覧ください。

2階展示室 スポットライト:戸田浩二

Koji TODA

静謐で凛とした焼締陶、戸田浩二の世界を紹介します。

※展覧会およびスケジュールは変更になる場合があります。



加守田章二《曲線彫文花瓶》1970年
益子陶芸美術館蔵



ヴァンガードコートの看板



扇田克也《海に降る雨》2011年
富山市ガラス美術館蔵
撮影:末正真礼生



宮澤章《今俑》2024年



松崎健《金志埜茶罍》
2000～2001年頃



宇佐美朱理《土環》



金重有邦《伊部茶碗》2024年
撮影:木村幸一



戸田浩二《焼締尖》2024年